

ことばの教室 要覧



津市立修成小学校 言語通級指導教室（ことばの教室）

〒514-0837 津市修成町9-1

Tel 059-228-7131

Fax 059-228-7132

ことばの教室（直通） 059-228-6321

言語通級指導教室（ことばの教室）

1. 設置年月日	昭和42年4月1日	言語障害特殊学級新設（実質通級指導）
	昭和59年	二重在籍で文部省の指導を受ける
	昭和61年4月1日	在籍児のみの指導となる
	平成元年4月1日	言語障害特殊学級のまま通級指導再開
	平成5年4月1日	言語通級指導教室併設
	平成6年4月1日	言語通級指導教室への移行（2担当）

2. 設置の目的

発音や語彙数、コミュニケーション等に困り感がある児童の言語機能の改善を目指すと共に、心身の健全な発達や社会適応の力を身につけさせる。

3. 指導対象児の主な障害

- (1) 構音障害 (2) 吃音 (3) 言葉の発達の遅れ (4) 口蓋裂
(5) 難聴 (6) 脳性麻痺 (7) 広汎性発達障害等に伴う言葉の困り感

4. 指導の目標

- (1) 言語機能の改善に努め、集団生活への参加意欲を高める。
(2) 障がいの受容を助け、障がいを乗り越える姿勢を育てる。
(3) 基礎的言語力を培う。
※児童をとりまく言語環境、生活環境の改善をはかる。

5. 指導にあたっての検査・調査

- (1) 会話による基礎的言語力検査
(2) 保護者への聞き取り 主訴・生育歴・家族状況・症状の経過・本人の状況・担任の意向など（プライバシーの侵害にならないよう十分に留意する）
(3) 検査 構音検査（単語検査 文章音読検査 単音検査）
被刺激性検査・言語弁別力検査・発語器官の形態及び機能検査
聴覚的記憶力検査・聴力検査・知能検査（WISC-IVなど）
感覚統合能力検査・人物画（グッド・イナフ）・形の認知
ITPA言語学習能力診断・絵画語い発達検査など

以上のような調査・検査を必要に応じて実施し、障害の的確な診断を行い、指導計画を立て、有効な指導を行うとともに、専門機関との連携を密にする。

6. 指導にあたっての留意点

言語の障害は、その現れ方自体よりも、さらに情緒面につよい影響を及ぼしていることがある。言語そのものへの指導をし、改善できることは早期に改善したい。しかし、障がいといわれる部分の改善に力を入れすぎるあまり、本人の気持ちを追い込んではいけない。改善の目安を立て、障がいの受容を助け、自信をつけさせる手立ても必要である。

ことばの教室は『オアシス』であるとともに、心のエネルギーを育み社会に飛び立つための『カタパルト（発射台）』とならなければならない。

7. 言語学級設置までの経過

昭和29年2学期に、精神薄弱児のための特殊学級が、県下で初めて津市立敬和小学校に開設された。昭和30年度には、県下12校に特殊学級が開設され、敬和小学校長「飯田治氏」を会長として、三重県特殊教育研究会が発足。毎年、研究会が開催されていった。その中で、教育の谷間に追いやられている障害児の中でも、障害が軽いとみられる児童たちと多くの共通点をもつであろう言語障害児の教育に視点が当てられるようになっていった。

昭和37年6月には「三重県言語障害研究会」が、9月には「言語障害児をもつ親の会」が結成された。また、昭和38年より、津市の教員「田中実・伊藤寿男・江藤清先生」を中心に、三重教育文化会館・三重県中央児童相談所などを会場にして、日曜日・祝祭日を利用した教育相談と言語治療が行われた。

昭和38年、第8次特殊教育研究大会夏期研究会において、千葉市院内小学校「大熊喜代松先生」を招いて『言語障害児の子どもの指導』というタイトルで講演会がもたれた。また、県下で初めて言語障害児の教育相談も合わせて行われ、約80名の子どもが相談に訪れた。

また、言語治療教室設置のための陳情活動が43年3月まで続けられた。陳情活動の甲斐あって、昭和41年度に津市立修成小学校に言語治療教室を設置するための準備期間として実験的開級と津市内幼小中学校の言語障害児の実態調査が行われ、昭和42年に県下初の言語治療教室として正式に認可された。そして、本校や、津市内の小中学生だけではなく、県下各地の言語障害児全体に教育の場を与えようという力強い教育実践がなされた。

8. 通級指導への強い思い

言語治療教室は、開設当初より、実態は通級指導（籍を地元校においたまま指導を受ける）であったが、法律上は、言語障害特殊学級であり、存続のためには、『在籍児』が必要であった。通級児の増加に伴い担当者の増員が必要であり（昭和58年には指導者5名）、2重在籍の実態が見られ、昭和59年に文部省より指導を受け、しばらく在籍児のみの指導（在籍児1名・担当者1名）となった。しかし、通級での言語の指導のニーズは高く、平成元年4月、前述の江藤清校長の下、担当者小島玉子により、実質上の通級指導が再開された。しかし、在籍1名の確保に苦勞し、通級指導児はたくさんいたが、言語障害特殊学級の存続は不安定な状態が続いていた。親の会の通級制度への陳情活動や担当者からの強い要望により、平成5年度に、学校教育施行規則第73条の21により、通級制度が実施され、本校にも、言語通級指導教室が新設された。平成6年度に言語障害特殊学級が閉級され、言語通級指導教室に2名の教員が加配され、現在に至っている（平成24年12月）。通級制度は、通常学級在籍のまま、言語指導が受けられるという面で、子どもたちの実態に合っており、評価できる。

9. 「言語障害児をもつ親の会」は、現在「三重県ことばを育む親の会」「難聴児をもつ親の会」として、以下の活動を行っている。

- (1) 言語・難聴通級指導教室、難聴学級の設置に向けての陳情活動や育成、援助
- (2) 講演会・講習会・相談会などの開催
- (3) 会報・パンフレットなどの発行

杉谷昇一さんは、82歳まで40年間近く、親の会会長として、尽力された。

保護者も子どもも元気になることばの教室 をめざして

＜オアシスからカタパルト（発射台）へ＞

子どもがあるがままの自分に自信を持ち、
自己肯定感を高め、元気に生活できるように。

津市立修成小学校 ことばの教室

〒514-0837 津市修成町9番1号

T E L 059-228-7131 F A X 059-228-7132

専用電話 059-228-6321

ことばに関する相談は、お電話でご予約ください。



心理検査・構音検査を必要に応じて実施。
育児記録・家庭、学校の様子を聞きます。

教育相談の結果、指導が必要な場合は、
定期的な通級や、教育相談をします。
専門機関を紹介する場合もあります。

修成小学校新1年生には発音スクリーニングを実施します。

指導の目標

自信がついて、元気に話す。
人の話がしっかり聞ける。
明るく、たくましく生きる。
人を思いやることができる。



指導内容 お子様によってちがいます。子どもの課題、年齢、環境、保護者のニーズなど総合的に考えて、指導内容を検討します。

構音指導・・・舌の機能を高める。構音点がわかる。音の聞き分け。

お話のリズムの指導・・・情緒の安定。体の力を抜く。話し方を気にしすぎない。

ことばの数をふやす・・・遊びの経験をとおして。絵カード。ことば遊び。日記。

コミュニケーションの指導・・・ソーシャル・スキル。劇遊び。

悩みの解消・・・困っていることなど、いっぱいお話して、心をすっきりさせます。

解決の方法を相談します。

体の動き・・・遊具等を使って、バランス感覚や運動の学習。感覚統合能力を高める。

指導時間 修成小学校日課表に沿って指導します。基本的に1時数45分です

＜午前＞

＜午後＞

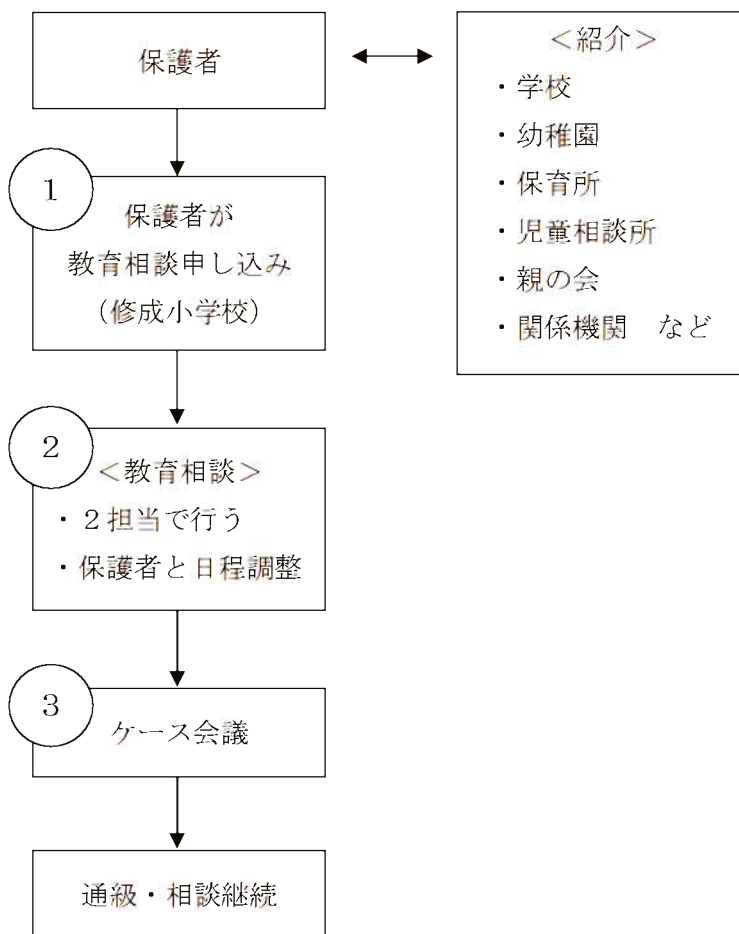
8:20		職員打ち合わせ	12:40	～	1:05	給食・・・この時間ことばの教室担当者は		
8:30	～	8:40	朝の読書	1:05	～	1:25	昼休み	職員室にすることが多いです。
8:50	～	9:35	1 限目	1:25	～	1:40	そうじ	
9:40	～	10:30	2 限目	1:45	～	2:30	5 限目	
10:45	～	11:30	3 限目	2:35	～	3:20	6 限目	
11:35	～	12:20	4 限目	3:25	～	4:10	7 限目	
				4:15	～	5:00	8 限目	

平成24年度担当者

辻 大輔

小島 玉子

通級になるまでの手順



1. 保護者の申し込み

子どもの聞こえやことばのことについて相談を希望する保護者が、修成小学校「ことばの教室」に申し込みます。

2. 教育相談

教育相談は、できる限り、ことばの教室担当者2名で行います。保護者から子どもの様子を聞いたり、子どもには必要な検査を行ったりします。

3. ケース会議

教育相談の結果について話し合い、通級指導が必要かどうか、また、必要な場合は、今後の指導計画を立てます。

4. 専門医や関係機関への紹介

子どもによっては、医学的診断や治療が必要な場合があります。また、感覚統合訓練など、ことば以外の指導が必要な場合があります。

5. 個別指導計画

相談に来る子どもは年齢も様々で、聞こえやことばの状態もそれぞれ違います。ひとりひとり子どもの様子をよく把握し、計画を立て、子どもに合わせた個別指導を行います。

6. 在籍学級・園との連携

在籍校や園との連携を密に取り、集団生活の中での子どもの困り感や支援できること・スキル等を把握する。

7. 保護者への支援

通級には、保護者の理解や協力がかかせません。子どもへの関わり方についても、説明し、相談します。

言語発達

☆言語発達が遅いとは

- ・同じ年齢の子どもと比べておしゃべりが少ない
- ・周りの人の話していることが理解できない
- ・おしゃべりはするが、単語が多く文章になりにくい
- ・話しかけたことばの真似ばかりして会話にならない

小さい子どもをもつ保護者の方々は、我が子のことばが順調に発達しているかどうか気になり、他の子どもと比べて遅いのではないかと心配します。

☆ことばの発達について

1. ことばの土壌

ことばを話すことの基礎は、生後すぐから始まります。赤ちゃんは、自分に接する人に泣いたり、笑ったり、声を出したりして、盛んに自分の思いを表現します。そのサインをしっかり受け止め、その意味をくみ取ったり、ことばで返していくことによって、赤ちゃんは、自分の気持ちを伝えると応えてくれる人がいることを知り、人とのやりとりの楽しさを覚えていきます。そして気持ちが通じ合い、つながりが深まることによって、人に対する愛着や関心が育っていきます。これが、人と人をつなぐ大切な「ことばの土壌」を育てることになるのです。

2. ことばの発達には個人差があります

人は、ひとりひとり顔が異なるように個性があります。同じように、乳幼児期のことばの発達のスピードもひとりひとり異なります。人への興味・関心が少ない場合や、人と人との関わりがつかみ取れない場合、ことばの発達は遅れます。また、聞こえに問題があったり、運動機能が未熟な場合もことばの発達が遅れます。

ことばの発達に遅れが見られる場合、闇雲に指導に入るのではなく、その主たる原因を見分け、適切な関わりを模索することが肝要です。そのためにも、アセスメントを実施することが必要です。

☆指導にあたって

1. 子どもには、楽しく笑ったり、声を出したりする遊びや、担当者が子どもと気持ちを共有しあえる経験を通して、人に自分の思いや考えを伝えたいという気持ちを高め、言語化していきます。

2. 保護者には、周りの子どもと比べるのではなく、その子の発達を喜べるよう、関わっていきます。子どもの発する小さなサインを受け止めることや、適切な言葉かけ等を提案し、子どもの小さな発達を認め、前向きに希望をもって育児ができるよう支えていきます。

構音

「おにいちゃんだっとう たえったらあとぶ。」（お兄ちゃんが学校 帰ったら遊ぶ）
お兄ちゃんの帰りを楽しみにしていることばです。家族の方にはわかるようなのですが、周りの人からは、「話していることがわかりにくい。」と言われることもあるようです。ことばの教室では、この例のように「発音がはっきりしない」というような相談をよく受けます。

☆構音の発達

呼吸や声帯、唇、舌、歯などを適切に使って言語に必要な音を作り出すことを「構音」と言います。一般に「発音」を構音と同様に使うことが多いようです。

子どもは周囲からことばをかけられ、まねをし、やりとりをする中で自然にことばを覚えていきます。そして、構音も発達していきます。子どもの構音は、およそ次のように発達していきますが、個人差もあります。

（４歳頃）	（５歳頃）	（６歳頃）
パ行 バ行 マ行 ヤ行 ワ行 ナ行 タ・テ・ト ダ・デ・ド・ン など	サ行 シャ行 ツ ザ行 ラ行 など	カ行 ガ行 チャ行 ジャ行 ハ行 など

また、「先生」を「ちえんちえい」というような幼児音が１年生初期にみられますが、s音の構音は、７歳頃までに獲得されればいいので、特に心配はいりません。しかし、学級での本読み等で目立ち、本人が苦にするようであれば、構音の指導を行います。

☆主な構音障害

- 省略・・・ある音をぬかす s a r a → a r a、t a i → a i など
- 置換・・・ある音を置き換える k a r a s u → t a r a s u など
- 歪み・・・標準音に近いが、微妙に違う音
 - 側音化構音・・・舌の中央が盛り上がったり、左右に振られたりして、息が正中から出ないために生じます。
 - 歯間化構音・・・歯と歯の間から、前舌が出て構音されます。

☆指導上の注意

- ・正しく発音できない音を言い直させたりせず、話す内容を受け止めます。
- ・子どもの全体的な発達をみて、構音指導に適切な時期かどうか、判断します。
- ・舌の機能を高めるとともに、身体感覚統合能力を高めていきます。
- ・正しい構音点や舌の動き等を、楽しんで取り組める用具（菓子等）を使って教えます。
- ・汎化には、ゲーム等を取り入れ、楽しんで取り組みます。
- ・周りの子どもたちには、「一人一人発音が違ってもいい」ことを伝えます。

吃音

ことばの出だしや途中でつまったり（難発）、繰り返したり（連発）、引き伸ばしたり（伸発）するなど、話しことばのリズムが乱れる状態を言います。また、それだけではなく、「つかえるのではないだろうか」「うまく話せないのではないだろうか」（＝予期不安）という不安な気持ちや緊張感から話すことを避けようとするような、二次的な問題が起こる場合もあります。吃音について考える場合、その話し方だけではなく、本人の話すことに対する気持ちや、周りの人たちの受けとめ方も含めて捉えていくことが大切です。

1. 始まり

吃音の原因は、医学的にも社会的にもはっきりしていません。ただ、子どものことばが急激に伸び、おしゃべりが盛んになる2～3歳ごろは、吃音のような話し方をすることはよくあることです。子どもがつかえる様子を見て、「ゆっくり話さない」「落ち着いて話したらいいよ」などと注意をすることは自然なことです。しかし、何度も言い直しをさせられたり、また、本人が『つかえないでおこう』と思ったりすることで、話すことへの緊張が増し、ますますつかえるようになるという悪循環に陥ることがあります。

2～3歳ごろの吃症状は自然に消えることがありますが、1年生で（時には年長児でも）吃症状がある場合、本人が自分の話し方を自覚していることが多く、すっきり消えることは難しいです。

2. 進展

『つかえないでおこう』という気持ちが強くなると、身体を動かしたり（随伴症状）、別のことばに置き換えたり、話すことを躊躇したりする様子が見られるようになります。母親や家族、周りの人の心配そうな表情にますます心を痛めます。何事にも消極的になり、劣等感を持つなど、ことば以外の問題を引き起こす場合もあります。

3. 安心と自信を取り戻すには

まず、『つかえて話す』ことは悪いことではないことを伝えます。また、つかえても話す職業に就き、積極的に生きている人の例なども示し、希望を持たせます。吃音を否定的に捉えず、毎日を元気に、積極的に生きていくことの大切さを伝えます。

つかえながらも、担当者と安心した雰囲気楽しく遊ぶ経験は、子どもに「つかえてもかまわない」というメッセージを自然に伝え、その姿を見て保護者も「つかえてもいい」ことを理解していきます。

担任の先生方にも、「いろいろな話し方があっていいこと」をクラスメートに伝える工夫をしていただきます。しかし、すぐに「つかえることへの不安」は無くならないため、指名の仕方やつかえた時の対処法など、本人の十分話し合っておいていただくことも大切です。時には、「ぼくはつかえるけど、最後まで話を聞いてください」といったことをクラスメートにカミングアウトさせる機会を設けることも効果があります。

つかえても、力強く、前向きに、明るく生きる子どもになって欲しいと思います。

参考文献

『どもる ^{きみ}君へ』

『どもるってどんなこと』

伊藤伸二

長澤泰子

解放出版社

ことばの臨床教育研究会

難聴

難聴とは、「聞こえにくい」状態をいいますが、子どもの聞こえの状態や程度はさまざまです。一人ひとりの状態に応じた手立てを工夫し、子どもたちがより豊かに、楽しく、人とかかわることができるよう支援していくことが大切です。

わたしたちは、人とのやりとりの中で話し手のことばを聞き、また、自分の発したことばをすぐに自分の耳にフィードバックさせて聞いています。そのようなやり取りの積み重ねの中で、ことばを習得してきているのです。

難聴の子どもは、相手の声や自分の声が「聞こえにくい」状態あるので、やりとりを楽しんだり、ことばを習得したりしていく上で困難が生じることが考えられます。

☆難聴の種類

音は、外耳から入り、中耳・内耳を経て中枢に達して知覚されますが、難聴はこの道すじのうちの部分が障害されているかによって、次のように分けられています。

1. 伝音性難聴

外耳から中耳にかけての伝音器に障害があるために、音の振動が十分に伝わらない状態の難聴です。補聴器によって物理的に音を大きくすると、聞きやすくなります。

2. 感音性難聴

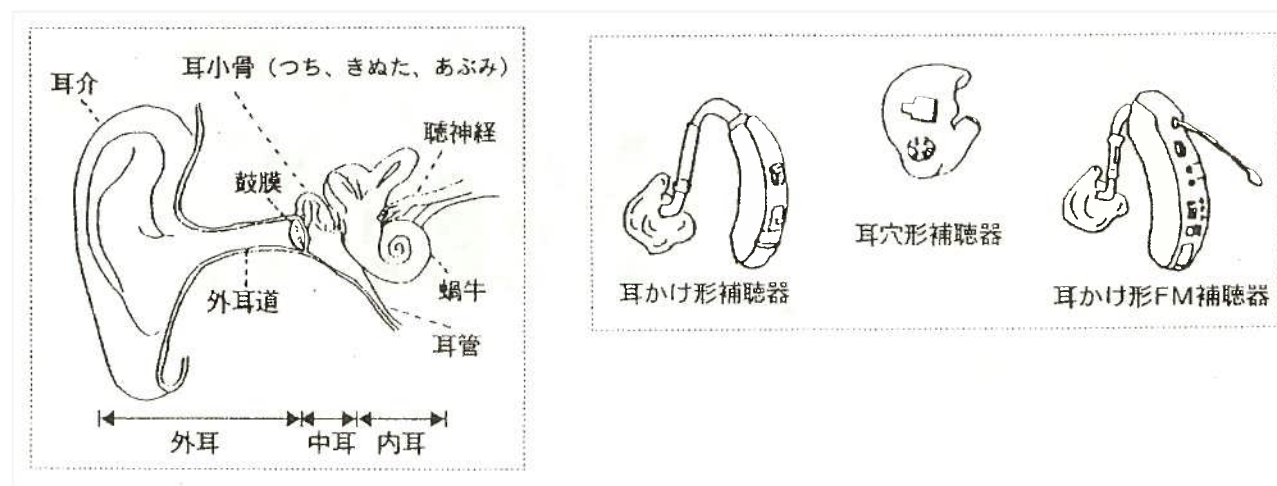
内耳から聴神経・脳中枢にかけての感音性の障害による難聴です。音を大きくしても聞き分けにくく、音そのものも歪んで聞こえると言われています。

3. 混合性難聴

伝音性難聴と感音性難聴とを併せ持った難聴です。

☆補聴器

補聴器は、人の声や身の回りの音を増幅してくれますが、聞き取りやすくするためには、一人ひとりの聞こえに合わせた調整が必要です。



人工内耳

人工内耳を装用している児童が難聴学級に通う例がみられるようになりました。

人工内耳は、手術を必要とします。体の外の部分と、側頭骨に埋め込む部分とから成っています。耳掛け型のマイクロホンで拾った音声を、サウンドプロセッサー（スピーチプロセッサー）で処理し送信コイルを使って、側頭骨に埋め込まれたインプラントに電磁的に送ります。そして、内耳の蝸牛内に分布する聴覚神経を、電極を通して刺激することにより、脳が音を知覚します。

人工内耳はその有効性に個人差があり、手術直後から完全に聞こえるわけではありません。しっかりリハビリテーションを行うことで、多くの場合、徐々にことばが聞き取れるようになっていきます。術後のリハビリテーションには、本人の継続的な積極性と家族の支援、手術前後の複数の専門機関での一貫した支援体制が大切です。



人工内耳の小児に対する適応基準

日本耳鼻咽喉科学会の小児人工内耳適応基準では、人工内耳適応条件と医学的条件とがあります。両耳とも平均聴力レベルが90 dB以上であること、中耳炎などの感染症の活動期は禁忌となっている等々があります。



- ① マイク
- ② サウンドプロセッサー
(スピーチプロセッサー)
- ③ ケーブル
- ④ 送信コイル
- ⑤ インプラント

聴力・視力と聴覚認知・視覚認知

聴力は正常なのに、聞こえることを認知する力が弱く、音韻数やリズムがつかみにくい子どもがいます。同様に視力は正常なのに、上下左右の混乱等で形の認知が弱い場合があります。また、遠視により、字などが見えにくい場合があります、注意が必要です。

口蓋裂

生まれつき口の天井にあたる部分（口蓋）や口唇が前後・上下方向に割れている状態のことをいいます。口蓋裂があると、お乳も飲みにくく、最近では早期に手術を受けますが、数回にわたることもあり、本人や家族の精神的な負担は大きいと思われます。手術後、自然に正しい構音を習得していくこともあります。

- ・発音の練習をする必要がある時は、楽しい雰囲気作りを心がけます。
- ・舌の機能（舌を動かす、吸う、噛む、飲み込む）がうまく働かないことがあります。口の中の動きを促す練習を遊びの中に取り入れながら進めていきます。
- ・つねに医療機関との連携を取っていきます。

ことばの教室実践記録（平成14年と平成24年の比較）

（1）通級児の主な障がい別人数

①平成14年

	校 内	校 区 外	計
構音障害	12	17	29
吃 音	0	2	2
口蓋裂	0	0	0
その他	1	0	1
計	13	19	32

※定期教育相談（1/W） 幼児12，中学生0 教育相談：木曜日1限目

②平成24年

	校 内	校 区 外	計
構音障害	18	26	44
吃 音	1	7	8
言葉の遅れ	9	5	14
口蓋裂	0	0	0
難聴	1	2	3
広汎性	7	4	11
計	36	44	80

※定期教育相談（1/W） 幼児24，中学生1 教育相談：随時空き時間

※平成19年度より特別支援教育が制度化され、軽度発達障害の概念が広まった。教育相談も、従来の発音や言葉数だけでなく、人と関わる力やコミュニケーションに「困り感」があるといった相談も増えてきている。

長年月（５年以上）言語障害特殊学級・言語通級指導教室担当者一覧（平成２５年１月現在）

昭和４１年～昭和５３年度	伊藤 寿男	実験学級として開級（言語障害特殊学級）
昭和４５年～昭和５２年度	東 公代	
昭和４７年～昭和５４年度	馬場 良子	
昭和５５年～昭和６１年度	松田 隆子	
平成元年～平成１０年度	小島 玉子	ことばの教室３Ｆ～２Ｆに移転。設計。
平成５年～平成１３年度	山本 恒昭	通級制度への移行
平成１１年～平成１７年度	下条満千子	
平成１５年～平成２２年度	上島 孝文	
平成１８年～平成２４年度	小島 玉子・辻 大輔	

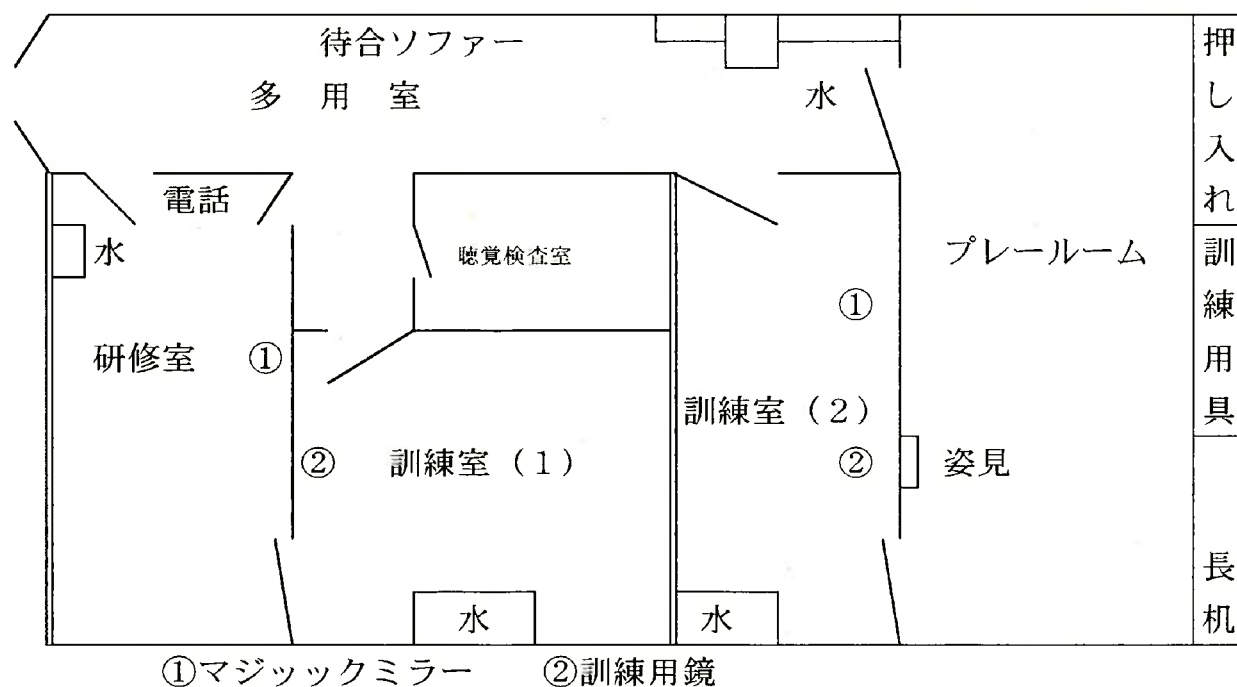
担当者が参加する団体

特教研・・・三重県特別支援教育研究会（言語・聴覚専門部会）
 言聴研・・・三重県言語・聴覚・発達障がい研究会
 東海研・・・東海四県言語・聴覚・発達障害児教育研究会
 全難言協・・・全国公立学校難聴・言語障害研究協議会
 他にも、LD学会、言語聴覚士会、日本オージオロギー学会等に参加し、研修します。

主要備品

ことばテスト絵本・WISC-Ⅳ・WISC-Ⅲ・WPPSI・K-ABC
 ITPA言語学習能力検査・S-S法言語発達遅滞検査・クレペリン絵画語彙発達検査
 フロスティグ視知覚発達検査・津守式乳幼児発達検査・学習レディネス診断検査
 矢田部ギルフォード性格検査・親子関係診断テスト・S-M社会生活能力検査
 補聴器フィッティングメーター・騒音計・Sインジゲーター
 ランゲージマスター・名詞、動詞、状況絵カード・部首カルタ
 ペグ・カラー立方体・手形、足形バランス訓練機器・追視器具
 マット・低跳び箱・低平均台・トランポリン・バランスマークⅡ・ユサブランカ

言語通級指導教室（ことばの教室）



<津市 ことばの教室（津市立修成小学校内） 周辺略図>

